



## 子どもの気持ちに寄り添いながら

保育長 長下部 佐織

新しいクラスでの生活が始まって1か月が経ち、新緑がまぶしい季節になりました。4月は寒暖差も大きく、保護者の皆様も、お子さんの新しい環境や体調管理への配慮をしながらの生活であったことと思います。小さいクラスでも、大きいクラスでも、大人でも環境が変わると緊張から心も体も疲れます。連休では、ゆったり過ごしながら体調を整えられるとよいですね。

保育園の子どもたちは4月当初緊張をしていた表情もほぐれ、保育室や保育者との遊びを楽しむ姿が見られるようになりました。ひよこ組は、登園時に保護者の方と離れるのが嫌で泣いていることもありましたが、保育者が不安な気持ちに寄り添いながら過ごすうちに受け止めてもらっている安心を感じたようです。玩具や保育者との遊び、まわりの友達のしていることに興味をもって見たり、同じことしてみたりと、少しずつ笑顔も見られるようになりました。安心して過ごす姿に子どもたちとの信頼関係が芽生えてきたことをうれしく思います。

乳幼児期は生涯にわたる人間形成の基礎が培われる重要な時期です。「自分を見てくれる」という安心感をベースに自分のしたいことを伸び伸びと楽しむことが大切です。その子らしさを大切に子どもの主体的な遊びを尊重していきたいと思っています。また、乳児期は保育者の援助を受けながらも自分でできることが増えていきます。保育者と一緒に喜びながら信頼と自信を深めていく過程も大切にし、保護者の皆様にも丁寧に姿を伝え、共有をしていきたいと思っています。

柳町こどもの森での生活が「ワクワク！なにをして遊ぼうかな」「楽しいな！」「友達と何をして遊ぼうかな」「明日も来たいな！」となるよう、教職員皆で話し合いながら、こどもの森ならではの園づくりをしていきたいと思っています。